

掛合小学校 校報 ましみず

〈第8号〉
平成22年12月発行

よいお年をお迎えください！！

早いもので、今年もあと10日ばかりとなりました。学校では、2学期のまとめを行い、新しい年を迎えるための心がまえ等と話しているところです。2学期は、運動会、バスケット大会、学習発表会などの大きな行事を行いました。子どもたちは、そのたびに大きく成長してくれました。今後も、どの子どもも、一回りも二回りも大きくなって進級できるよう指導していきたいと思っております。皆様の温かいご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

では、皆様、よいお年をお迎えください。

学習発表会……多くの保護者の方、地域の方をお招きして、学習発表会を行いました。昨年は、インフルエンザの影響で実施できなかったため、2年ぶりの開催となりました。

1年生から6年生まで、各学年で学習したことを20分にまとめて発表しましたが、どの学年もアイデアいっぱいの素晴らしい内容であったと思います。大変よく頑張りました。

学習発表会を通して、子どもたちは、表現力や協調性、創造性など、たくさんの力をつけることができました。また、お互いに発表を見合うことで、よさを認め合ったり、豊かな情操を育てたりすることもできました。今後の学校生活に大いに役立つことと思います。

学習発表会には、多くの方にご来場いただきまして、本当にありがとうございました。後ろまで十分に声が届かなかったり、照明が十分でなかったりするなど、反省点もありましたので、来年度に活かしていきたいと思っております。ありがとうございました。



「人権を大切にする」とは…?

12月4日～10日までは、人権週間でした。これを受けて、本校でも、全校で人権について考え、自分たちでできる取り組みを実行しました。「自分をみつめるアンケートの実施」、「アンケートに基づいた話し合い」、「こころぼかぼかカードの記入」など、みんなが安心して生活できる学校をつくるための取り組みを行いました。

残念ながら、本校でも「いじめ」ととれるような事象は、起こっています。ささいなことからトラブルになり、相手に対して、暴言をはいたり、暴力をふるったりすることや、友だちをからかうような言動などが起きています。そのような言動に対し、学校では、毅然とした態度で指導し、問題の本質を改善するよう心がけています。また、それらの問題は、担任一人で抱え込まず、教職員が一体となって、学校体制で対応するようにしています。

保護者の方、地域の方で、子どもたちの言動で気になることがございましたら、遠慮なく学校までお知らせいただければ幸いです。学校では、家庭や地域といっしょになって、人権を大切にしている取り組みを行っていくことが重要であると考えています。

子どもたちには、学校のすべての教育活動を通して、一人一人のかけがえのない命を守ろうとする気持ちを育て、思いやりの心を育むよう努力していきます。そして、「いじめ」のない学校づくりに取り組んでいきます。皆様の温かいご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

〈**島根県図画コンクール入選**〉島根県図画コンクールで表彰を受けましたので、紹介します。

1年 岡田昌樹さん 2年 小澤空大さん 中村陽菜さん
3年 坂口陽希さん 樋口昌也さん 藤原優磨さん 4年 藤坂有加さん 藤原大己さん
5年 佐藤冴江さん 6年 大井理彩子さん 茂富 楓さん

地域の方にお世話になって……米作り、裁縫、習字、太鼓、地域学習など、いろいろな教育活動に対し、今年も多くの方にお世話になりました。おかげをもちまして、子どもたちが大変楽しく、充実した活動を行うことができました。

また、地域の方々には、学校の様子、子どもの実態を知っていただくことができたと思います。今後も、多くの方に学校へ来ていただいて、皆様のお力をお貸しいただければ幸いです。

どうか来年もよろしく願いいたします。本当にありがとうございました。



就学時健診から……先日、来年度入学されるお子さんの就学時健診を行いました。4月には、元気いっぱいのお子さんが、21名前後、入学される予定です。32名の6年生が卒業するため、23年度は、10名程度の減となりますが、「元気で明るい掛合小学校」は、永久に不減です。元気に入学されることを願っております。

ベルギー・オランダで生活して学んだこと……<その2・人種差別>

前回到続き、「北ヨーロッパ生活」で学んだこと・気づいたことを書かせていただきます。

町を歩いていると、いろいろな「人種の人々」に出会います。ゲルマン系・ラテン系のヨーロッパ人はもちろんのこと、アフリカ系、東洋系、イスラム系など、世界中の民族に会うことができます。バスや電車の中では、いろいろな国の言葉が、普通に聞こえています。多くの民族がいっしょに生活しているので、当たり前のことですが、日本のように、日本人と日本語が大半を占める環境で育つと、初めは違和感があるかもしれません。

妻は、公共交通機関を利用していたので、バス停で待っていると、フランス語で「きょうはいい天気ねえ」、「バスがなかなか来ないけど、もういっちゃったの?」、「〇〇へ行くにはどうすればいいの?」などと、話しかけられたり聞かれたりしたそうです。私も、フランス語で何か聞かれたことが何回かありますが、「ごめんね、フランス語はわからなくて…」とだけ言って、教えることはできませんでした。「おれに聞かなくても、ベルギー人に聞いて!」って感じでした。

このことを、日本に置き換えて考えてみると、どうでしょうか?日本で、何か困って聞こうとする際、いくら近くにいても、わざわざ外国の人に聞こうとするのでしょうか?その人が日本語べらべらだったとしても、おそらく別の日本人に聞くと思います。

また、「あなた、中国人なの?」「韓国人なの?」「ベトナム人なの?」などと聞かれたこともありました。ヨーロッパの人から見れば、東洋人はみな同じに見えるのでしょうか。そのときも、「いえ、日本人なのよ!!」って強く言い張る必要もないと思います。

これらの経験から、いろいろな人種の人と一緒に暮らしている環境では、差別感は生まれにくいということがわかりました。人種は違っても、みな当たり前のように生活をしているのです。

誰もが安心して暮らせるためには、誰に対しても同じ態度が取れることが大切だと思います。みんなが安心して暮らせる社会を、この「掛合」でも、もっと広げていきたいと思っています。みなさんがたくさんもっている「人を思いやる気持ち」に大いに期待しています。(山根 毅)

